

プラトンインプラント Type I				
ボディー径	PF 径 / 指定ドリル径	OAM 径 (指定ドリル相当)	OAM 径 (カウンターボア相応)	備考
φ 3.3mm	φ 4.4mm / φ 2.8mm	OAM φ 2.8	備考欄参照	機械研磨面を骨内に完全埋入する場合は、ジグリングにて骨頂部をプラットフォーム（以下、PF）径まで拡大してください。 サイズのには、Type II に近いので、深度 6mm 程度で PF 径付近まで拡大します。（Type II カウンターボア相応、参照）
φ 3.7mm	φ 4.4mm / φ 3.2mm	OAM φ 3.2	備考欄参照	
φ 4.0mm	φ 4.4mm / φ 3.5mm	OAM φ 3.4	備考欄参照	
φ 4.5mm	φ 4.8mm / φ 4.2mm	OAM φ 4.2	備考欄参照	
φ 5.0mm	φ 5.5mm / φ 4.7mm	OAM φ 4.6	備考欄参照	
φ 6.0mm	φ 6.5mm / φ 5.7mm	設定なし	設定なし	
プラトンインプラント Type II				
ボディー径	PF 径 / 指定ドリル径	OAM 径 (指定ドリル相当)	OAM 径 (カウンターボア相応)	備考
φ 3.3mm	φ 4.4mm / φ 2.8mm	OAM φ 2.8	深度 6mm / OAM φ 3.0～φ 4.2 まで	骨内埋入部がテーパードのため、OAM 深度 6mm で骨頂部付近を PF 径付近まで拡大してください。
φ 3.7mm	φ 4.4mm / φ 3.2mm	OAM φ 3.2	深度 6mm / OAM φ 3.4～φ 4.2 まで	
φ 4.0mm	φ 4.4mm / φ 3.5mm	OAM φ 3.4	深度 6mm / OAM φ 3.6～φ 4.2 まで	
φ 4.5mm	φ 4.8mm / φ 4.2mm	OAM φ 4.2	深度 6mm / OAM φ 4.2～φ 4.8 まで	
プラトンインプラント Type III				
ボディー径	PF 径 / 指定ドリル径	OAM 径 (指定ドリル相当)	OAM 径 (カウンターボア相応)	備考
φ 3.3mm	φ 4.0mm / φ 2.8mm	OAM φ 2.8	深度 6mm / OAM φ 3.2～φ 4.0 まで	Type II と同様です。
φ 3.7mm	φ 4.0mm / φ 3.2mm	OAM φ 3.2	深度 6mm / OAM φ 3.4～φ 4.0 まで	
φ 4.0mm	φ 4.2mm / φ 3.5mm	OAM φ 3.4	深度 6mm / OAM φ 3.6～φ 4.2 まで	
φ 5.0mm	φ 5.5mm / φ 4.7mm	OAM φ 4.6	深度 6mm / OAM φ 4.8～φ 5.2 まで	
φ 6.0mm	φ 6.5mm / φ 5.7mm	設定なし	設定なし	
プラトンインプラント Type IV				
ボディー径	PF 径 / 指定ドリル径	OAM 径 (指定ドリル相当)	OAM 径 (カウンターボア相応)	備考
φ 3.3mm	φ 4.1mm / φ 3.3mm	OAM φ 3.2	深度 6mm / OAM φ 3.2～φ 4.0 まで	Type II に準じますが、テーパードのため指定のテーパーツイストドリルの使用をお勧めします。 骨頂部のみ PF 径まで OAM で拡大後、ツイストドリルを使用すると、骨頂部皮質骨を飛ばすリスクを軽減します。
φ 3.8mm	φ 4.1mm / φ 3.8mm	OAM φ 3.8	深度 6mm / OAM φ 3.8～φ 4.0 まで	
φ 4.7mm	φ 5.0mm / φ 4.7mm	OAM φ 4.6	深度 6mm / OAM φ 4.6～φ 5.0 まで	

Type I の場合

ブラスト面は、ほぼストレート仕上がりになっています。最終ドリル径を最終 **OAM** 径としてください。(骨質が軟らかい場合は、やや小径まで)

機械研磨面を骨内に埋入する場合には、プラットフォーム径まで拡大する必要があります。形状は **Type II** に近いので、深度 **6mm** 程度で **PF** 径付近まで拡大しますが骨内埋入深度によって骨頂部径が違いますので注意してください。

Type II の場合

ブラスト面・機械研磨面分岐部から **4mm** 程度がテーパになっています。**OAM** を **6mm** 骨内に挿入した形状と当該テーパ部分が近似しているため、**6mm** の深度で **PF** 径まで拡大してください。

Type III の場合

ほぼ **Type II** に準じますが **PF** 径がやや細いため、最終 **OAM** の径が **Type II** に比較して小さくなります。

Type IV の場合

テーパードのため、指定のテーパツイストドリルのご使用をお勧めします。指定のファイナルドリル径同等まで **OAM** で拡大後、やや大きめの **OAM** でジグリングしてください。**PF** 径まで骨頂部のソケットを拡大後、テーパツイストドリルを使用すると、骨頂部の皮質骨を飛ばすリスクが軽減されます

臨床的ヒント！！

骨質が軟らかくファイナルドリルまでオーギュメーターのみで拡大できた場合には、マニュアルドライバー（※1）に装着したドリルを使用すると"モーターレス“でインプラント窩を形成することもできます。

骨頂部皮質骨を飛ばしたくないなどの理由でファイナルドリルを使用しない場合は、トレフィンバーが便利です。側面部に刃が付与されていないトレフィンバー（※2）を使用すると骨頂部の裂開が防止できます。

また、海綿骨を採取することができるため、骨補填材として利用することもできます。

参考商品（詳細はお問合わせください。）

※1) 商品名：2次オペ用ボーンカウンターツールマニュアルドライバー

販 売：白鵬 価 格：9,200 円（参考価格）

※2) 商品名：K-SYSTEM KS3.2mm セット

◇ブレード着脱には、専用ドライバーがあると便利です。

販 売：(株)メディカルエイペックス

商品名：ドライバー 価格：3,000 円（税抜き）

価 格：58,500 円（税抜き）

インプラント長まで挿入できない場合、骨頂部のみ拡大してインプラント長まではトレフィンバーをご利用ください。

無注水による削合ができますので、採取した骨を使用することも可能です。

